

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200339		
法人名	有限会社 在宅介護お世話宅配便		
事業所名	グループホーム お茶ばたけ町田		
所在地	唐津市町田1872番地		
自己評価作成日	令和2年12月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和3年4月19日	外部評価確定日	令和3年5月14日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地べたからの介護  
ベットから布団へ、車椅子・ソファから畳へ。お客様の出来られない所をお手伝いさせて頂く。寄り添うケア。動けるところは自由に動いてもらう。いざり、四つん這いにて。最後まで自分の力で生き抜く事が出来る支援を手伝います。自由を勝ち取る。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

国道から脇へ入り、少し上がった先に事業所はある。高台に建ち眺めがよく、日当たりも良好である。事業所の特長は、法人独自のケアである「地べたからの介護」を実践し効果を上げていることである。同業者の見学も多いが、一朝一夕に出来る事ではなく、当初は非難も受けながら、信念を持って続けてきたことの成果である。本人の力を引き出し、利用者が自己決定できるグループホームであるよう努めている。また、建物の構造ではリビングが中心にあり、各居室やキッチン等はそれを取り囲む配置になっている。居室の戸を開けると誰かがそこに居てくれ、日常の音や声が聞こえることは利用者にとって安心感に繋がっている。代表者は、職員がやりたい事を後押しするのが自分の役目と言い、職員は自由に意見が言える職場環境でもある。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「関わり合って育ち合おう」をスローガンとした会社理念を施設内に掲示し、常に目に着くようにしています。また、定期的にスタッフ勉強会を行い、会社理念の輪読をおこなっている。	法人全体で統一された会社理念が軸にある。事業所では目に付く場所への掲示や、折に触れ話題にすることで職員への意識付けを図っている。「関わりあって育ち合おう」の言葉通り、利用者への声掛けや不自由さをチームワークで乗り切るところ、また、先輩がやってみせているケア等々には理念が浸透し、実践している様子が窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所へのスーパーで買い物をしたり、清掃活動や地域行事への参加や施設行事への参加の呼びかけをしていましたが、コロナ禍にて自粛している。	自治会に加入し、回覧版も回ってくることで地域の細かい情報も届いている。周辺には新しい家が多く、子育て中の若い世代とも、日頃から挨拶も交わし良好な関係である。家族の面会は24時間可能であり、馴染みの人や地域の人々がほぼ毎日のように訪れていると答えていた日常は、コロナ禍で規制されるようになった。しかし、事業所下にある公園の草取りなどは積極的にいき、地域に暮らす一員として出来る事に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域会議の中で、認知症の症状、支援方法だけでなく、高齢者虐待の実践や感染予防等、資料をもとに説明を行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を行う予定であったがコロナ禍にて休んだ。事業所からの報告は、案内時に、文書にて報告している。開催した時には、地域からの意見、各担当者からの意見について話し合い、施設勉強会などで、報告し、日常のケアに活かしている。	コロナ禍では運営推進会議の休会もあったが、その分の資料は届け繋がりには保っている。開催時には概ね一時間を要し、事業所からの報告のみに終始することなく、双方向な意見交換の場となっている。前回の外部評価では構成メンバーに家族の不在を指摘されていたが、直後に見直しており、その対応は早い。また、メンバー同士が顔見知りとなり相談し合う場面も見られる。例えば、行政側が持参した「障害のある人たちのための防災支援ガイドブック」には、事前に出来る備えが分かりやすく解説されており、メンバー各自にとっても幅広い情報が得られる場となっている。自己評価では、この会議を通して地域との繋がりや深まりが大いに増えていると答えている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者などへ、運営や制度に関する疑問点がある時には、その都度確認することで、連携を取っている。	市からの委託を受け、在宅介護支援センターを運営している法人である。実績もあり、逆に行政側から頼られている面も窺える。相談事があれば電話や直接出向き、実直に対応してもらえる関係は築いている。また、コロナ禍以前は月に一度、介護相談員の訪問もあった。事業所では、利用者との橋渡し役として忌憚のない意見が聞ければと今後も期待している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や社内研修において知識の習得に努め、身体拘束を行わない。又、施設内に身体拘束の指針を掲示し、常に目を通すようにしている。	入居契約時に指針の説明を行っている。研修も法人全体や職員会議の中で取り上げるなど計画的に実施している。職員は身体拘束の内容とその弊害も理解しており、これまでにその事例もない。季節や天候によっては玄関ドアも含め、窓やサッシ戸も開け放たれており(コロナ禍での換気対策もあり)、利用者は見守られながら自由に過ごしている。安全面や家族の承諾等を理由に正当化することもない。仮に不適切な場面に遭遇した場合は、その時、その場で指導があり、全体の事として提起することになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や社内研修において知識の習得に努め、身体拘束を行わない。又、施設内に身体拘束の指針を掲示し、常に目を通すようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見人制度をご利用の方はおられないが、職員は外部研修や社内研修にて知識の習得に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約時にお客様並びご家族様へ十分な説明を行い、不安な事や疑問点に答え、理解や納得を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様との日々の関わりの中で、意見や苦情を聴取できるように努めている。お客様から出た意見は職員全員へ伝達・共有し、改善策を講じている。	通常であれば家族の面会は24時間可能であり、来所も多かった。現在は規制もあり、毎月の利用明細を送付する際に、日常の写真やメッセージを同封し近況を知らせている。また、来所には玄関と、そこからまっすぐ先にあるリビングとの間で遠目の面会となるが、声は聞こえる距離である。なかなか来られない家族には電話連絡も行い、意見等を汲み取ろうとしている。入居時には「家族も介護者の一人である」と話し、支援を促しているが、家族からは感謝の声が多く聞かれる。意見が出されたら前向きに活かす体制もあり、事業所の外にも苦情等の受付窓口があることは書類に明記されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から気軽に意見や提案を出来ような関係作りに努めている。会議等においては意見や提案を聞くようにしている。また、就業時間以外でも機会を設けて反映させている。	毎月の職員会議は法人内の3グループホームが合同で行っている。場所はそれぞれが持ち回りで開き、2時間程である。メリットとしては合同開催だからこそ聞ける他グループホームのリアルな意見や想いがあり、カンファレンスでは全ての利用者の様子を知ることができ異動や応援がスムーズである。また、休みの職員も自主的に参加しており、周知事項や勉強会などでレベルを合わせやすい事などが挙げられる。通信アプリのLINEを使い情報が共有されている事も特長である。日頃から自由に発言しやすい職場環境があり、会議の場でも同様である。代表者や管理者には現場の声に耳を傾ける姿勢があり、働きやすい職場であるよう配慮も窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、処遇に反映させている。また、給料支給時に管理者が給料明細書を手渡ししている。職員の相談や悩みを受けける機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の施設勉強会を設け、職員全体のスキルアップを図り、幹部研修会、外部研修会も定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社内の他事業所との交流を持つ事で、職員の研修並びにサービスの向上につなげています。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人や家族との面談を行い、本人や家族の思いや要望を把握するように努めている。また、合わせて当事業所についての説明を行い、安心して利用できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には本人や家族との面談を行い、本人や家族の思いや要望を把握するように努めている。また、併せて当事業所についての説明を行い、安心して利用できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及びご家族と、担当の介護支援専門員等からの情報を基に本人、家族を含め関係者と話し合い、必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会社理念に掲げている「関わり合って育ち合おう」に基づき、相互関係に努めている。日課であるラジオ体操、手話歌、掃除、洗濯物たたみ、料理作り、壁紙カレンダー作り等。人生の経験談により、作業のポイントや処理方法など多くの物を学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も介護者の一人であるという説明を行い、会社・事業所のイベント・地域行事への参加を促し、職員と共に支援していけるように、協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族へ定期的にお手紙や写真を送付したり、電話等により、連絡をとれるように努めている。また、ご自宅への外出の付き添いも行っている。	入居に際し、本人や家族、担当のケアマネージャーから話を聞き、また利用していたサービス事業所や病院関係者からも情報を集めることがある。それらを基に具体的な支援が組まれている。本来なら盆正月の帰宅(宿泊もあり)や墓参り、法事への出席や家族との外食などが当たり前のように支援されていたが、このコロナ禍では全てが自粛である。事業所では電話の取り次ぎはいつでも可能であり、訪れる家族とは遠目ではあるが声は聞こえる距離で面会を実現させている。これまでに大切にしてきた関係が途切れることのないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状態を理解・把握し、一人一人がご家族の一員として、お互いを支え合う関係になれば、職員がサポートに入れるように努めている。職員だけでなく誰かが傍らにいてくれる安心感が生まれるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関係を必要とするしないに関わらず、在宅支援センターや他のサービス事業者との連携により随時連絡、相談が受けられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、本人の思いや言葉を傾聴し、関わり合う事で把握・実現できるように努めている。ご家族からも以前の生活状況等の情報収集を行い支援につなげている。	職員に浸透しているのは利用者の思いに気付くことを心掛ける事である。そのためには日頃から関わりを密にするというもので、スキンシップを交え、目線を合わせる会話はもちろんのこと、発語の少ない利用者であっても辛抱強く待つ姿勢が見られる。入浴中の寛いだひとときや、一対一で対応している時などは特に、想いを話してくれることが多い。聞き取った事は口頭やノートに記し共有を図っている。そこからケアプランに反映させた例もある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人やご家族との面談を行い、関係者からの情報と併せてお客様についての把握を行う。入所後においても、本人やご家族との関わり、日頃のケアの中から随時情報を取り入れるように努める。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から関わりを密に行い、何気ない仕草や言動からも状態が把握できるように努めている。気付く事を心掛け、日々の記録を基に、モニタリングやカンファレンスを行い、必要に応じ介護計画の追加・変更を行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時は、本人・ご家族よりご意見を伺い反映させるようにしている。また、職員全体で計画・モニタリングについて話し合い、作成している。	ケアプランの設定期間は、入居して間もない時期は毎月とし、その後、3か月毎、6か月毎、長期目標であれば一年まで延ばしている。その間に変化があれば臨機応変な対応もある。利用者の想いは日頃のケアの中で把握し、家族の希望等は来所時や電話での会話から汲み取っている。家族から食事量について十分だと意見があった際は、本人を観察しながら適量を探り支援している。サービス担当者会議へも同席してもらい、今回の家族アンケートでは全員が「分かりやすく説明を受け、一緒に話し合っている」と回答している。また、サービス記録はシステム化が図られている最中だが、ケアプラン実施状況の詳細は支援経過記録で確認することができ、ケアマネジャーによるモニタリングも毎月行われている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お客様ごとに個人記録を作成し、日々の生活状況や状態の変化を記録している。職員間で情報共有を図り介護計画作成・見直しの際の情報として活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の要望により、買い物や外出支援も行っている。また、手話を交えたり合唱団を作り発表する機会を設けている。喜びと楽しみを感じられるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭りへの参加、レクリエーション、団体のボランティア、地域の保育園園児の活動を取り入れ、交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回のかかりつけ医の往診や定期受診により、体調管理を行っている。緊急時は直ぐに連絡して適切な指示を受けたり、病院にお連れしている。	かかりつけ医として昔からの馴染みの医師の元へ通う方もあれば、入居後に協力医への変更を希望した方もある。その際は往診なども含め、詳しく説明を受け納得しての変更希望である。受診に出向く場合は職員が同行しており、その結果報告は異常がなければ後日まとめて行われている。また、他科受診が必要な場合はかかりつけ医へ相談をし紹介してもらうケースも多く、医師からの助言は心強い。法人内の訪問看護との契約もあり、健康面や医療面での不安がないよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	会社内の看護師や受診に関わらず、随時主治医または看護師への相談を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は主治医との相談により状態把握に努める。事業所での生活状況や環境整備、医療連携体制を相談した上で、早期退院を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、書面により説明を行い、体調の変化に応じて適宜、ご家族やかかりつけの医師との話し合いを行っている。職員全体で勉強会の開催時に意見を出し合い共通理解を行っている。	入居契約時に指針の説明を行っている。これまでに看取りの経験があり、今後も希望があればその用意はある。宿泊して看取る家族には食事も提供している。全ての職員が看取り(後のエンゼルケアまで)を経験しており、利用者も一緒に故人を囲み最期の別れをしたこともある。関わっていた職員は休みでも出てくるという、日頃の事業所の雰囲気が伝わってくる例である。容態の変化に伴い揺れ動く家族の気持ちも踏まえ、話し合いは何度でも重ねる事とし、医師が同席し説明することもある。本人や家族が安心して納得した最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修計画の中に「緊急時対応」を取り入れ、訓練を行っている。マニュアル、緊急連絡網を活用できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難・消防・通報訓練・避難経路の指示・消防設備の定期点検を行っている。訓練時には、消防署の立ち合いで助言を頂いている。今年度の一回目は、10月22日に実施しました。近隣には特に夜間火災時の協力をお願いしています。	年2回の訓練のうち一度は消防署も立ち合っている。夜間は想定のみで、その際の対応は夜勤者とみなした一名で行っている。利用者も一緒に避難を体験し、まず事業所下の公園まで出ている。最終的な避難場所が近くの法人施設になることは家族へも周知している。日中に行う訓練に近隣住民の参加はない。職員は通報装置や消火器の使い方も承知しており、LINEによる連絡網で近くに住む同法人職員も駆け付けの手筈になっている。非常食や水の備蓄もある。訓練での指摘や反省点はその場で伝えられ、3グループホームで共有される。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、お客様への言葉遣いや個人情報の取り扱いには十分に配慮している。また、個人情報保護については、書面による説明、同意を得ている。	トイレや入浴の介助は最も配慮が求められる場面である。羞恥心を思えば利用者の目の前に立つ介助にならないよう、また、トイレで座った時にはバスタオルを掛けるなど細かい気遣いが窺える。接遇の研修もある。個人情報の取り扱いに対する職員の意識も高く、居室の名札やホーム便り等への写真・名前の掲載も入居時に承諾を得ている。今後は業務に関することであっても、声の大きさにまで注意を払おうとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の自己決定を尊重し、実践できるように関わりを密にし、職員による説明や必要な支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	馴染みの生活継続できるように、一人一人のペースに合った時間が流れるように配慮しており、随時お客様の希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一日一回は、必ず鏡を見て頂くようにしている。お客様が主体となり時候に合った衣服等の身だしなみを行う事ができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物や好きな物を会話の中から伺ったり、季節にとれる旬の物を伺ったりし、献立に取り入れている。食材の買い物、調理、配膳、後片付けを職員とお客様と一緒にこなしている。職員も一緒に食事をしながら見守りを行う。	現在、昼夕の主副菜は配食を利用している。それに足して畑で採れた野菜や、近くで摘んだつくしや落を使った一品が添えられる。配食が休みの曜日には冷蔵庫の中身や利用者へ食べたいものを尋ねメニューが決まる。自宅と同じである。好き嫌いやアレルギー有無の把握もしており、苦手な食材等には代替えもある。介助が必要な利用者(2名)はいるが、口から食べる事の大切さを理解している職員は、きざみ食にしてゆっくりとしたペースで、傍らで話しかけながら介助している。誕生日は配食が休みの日を利用し、本人が食べたいものと手作りケーキが用意され皆で祝っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お客様の体調に合わせ、食事量や水分量の把握・調整を行っている。職員も同じ食卓と一緒に食事をしながら見守りを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人適した口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄を心がけている。排泄記録表の作成や本人の排泄のサインの把握により、自立排泄の支援やおむつ外しを行う。時間を決めパット交換、トイレ誘導を行っている。	排泄に関して自立した利用者も若干名いるが、任せたままでなく、さりげなく見守っている。排泄記録表を活かし、職員の適切な声掛けや誘導によって入居後に改善した例もある。失敗が減ることはパット類の使用枚数が減ることであり、費用負担の軽減にも繋がっている。また、法人独自のケアである「地べたからの介護」が功を奏し、便座から自分で立ち上がりが出るようになった利用者もいる。トイレ内には敢えて縦の手摺りのみと、座位を保つ背もたれが取り付けられ、自立を促す補助具となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘についての理解は、施設勉強会でできている。食事並びに水分の摂取量の把握努め、日常生活の中で、適度の運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に毎日入浴して頂いている。お客様の生活習慣や希望に添えるように対応している。寒い時期は、浴室の暖房も利用している。足浴も行っている。	家庭での入浴が毎日であるように、事業所では当たり前の事として毎日、午前中に入浴時間がある。拒む利用者はいない。炭酸ガスが温浴効果を高めるとい入浴剤も使っている。浴槽の一方の縁に幅広の木製板が貼られ、腰を下ろしたり、下ろしたまま足を浴槽へ向ければ安全に浸ることが出来る。脱衣場のベンチには身繕いもしやすい大きさと安定感がある。また、冬場のヒートショック対策も考慮されており、隣にトイレがあることも使い勝手がよい。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ、介助は最小限にし見守っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日課にとらわれる事なく、起床時間や就寝時間、昼寝等できる限り本人のペースに合わせたお客様本位の生活を送れるようにしている。夜の安眠の為に、毎日天気の良い日は、外でのラジオ体操や散歩を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を資料化する事で、随時閲覧把握をするようにしている。また、服薬の確認、症状の変化の確認、効能の確認を随時行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様の生活習慣や馴染みの事を取り入れ、本人の能力に合わせた支援を行っている。また、季節ごとの行事や外出で楽しく気分転換ができるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせて、散歩や戸外活動を心掛けている。買い物などお客様の希望に合わせて、出来る限り自由に外出ができるようにしている。車でのお出掛けも実施している。	利用者から外出の希望が出た時は即断即決で出掛けるのが基本である。車両は事業所間の貸し借りで調達し、天候をみて当日に決まり皆で出掛けることもある。但し、現在はドライブのみで降車することは自粛している。花見の時期も車の中から眺めるだけになったが、利用者には喜んでもらえたという実感がある。また、天気の良い日には玄関先に椅子を並べ、日差しを浴びながら体操などで体を動かし、同時に五感も刺激されている。目の前の公園も日常的な散歩コースである。全く外へ出ないという利用者はいない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に本人の能力に合わせて管理を行っている。必要な時には随時使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様の希望に随時対応している。手紙が届くと、本人様の前にて開封、渡している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングルームは、常に天窓からの自然光が差し込み、寒い時期には土間に集まりストーブで暖をとりながら、会話を楽しめるようになっている。リビングルームは、掘ごたつとなっており、畳に座って落ち着けるようになっている。	玄関を入ると土間があり、そこにはストーブが設えてある。利用者が日中の殆どを過ごすリビングは掘りごたつになっており、周りは畳敷きである。車の騒音は殆どなく、各々が自由に過ごしている。掘りごたつの出入りによって養われる筋力は「地べたからの介護」が示す通りである。利用者の動線上に行動を妨げる物はないが、時には避ける動作も必要と考えている。敢えて手摺りを付けていない事も信念が窺える。コロナ禍でもあり高性能空気清浄機が2台設置され、換気には天気が良ければ窓やサッシ戸等も開け放している。居室も同様である。手を触れる箇所の消毒はこまめに行い、職員が掃除をしていると手伝う利用者もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様の体調に合わせ、土間のベンチや畳にて個々がのんびりと寛ぐ事ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室には、使い慣れた家具を持ち込んだり、思い出の品を飾る事になっている。空間を作れるようにしている。	居室に持ち込む品物には火気等の危険物以外に制限はしていない。居心地良く過ごしてもらえるよう支援している。居室は畳敷きでベッドはない。布団を敷くため押入れからの上げ下ろしが必要だが、自分で出来る方もいて、それも生活リハビリのひとつと考えている。室内の飾り付けも任せて見守る場合もある。季節毎の衣替えは職員が行い、天気の良い日には寝具を干す手間も惜しまない。家族が希望すれば居室での宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は必要のない段差を解消し、死角をできる限り減らし、安心して能力を発揮できるように配慮している。居室前にはお客様本人の写真を間違えないように工夫している。		

**V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)**  
**※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。  (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。  (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。  (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。  (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。  (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない